

ラウンドテーブル 学生の経験を学びに変える

■講師



小林 修(愛媛大学 国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター 副センター長、同モザンビーク交流推進班 副班長、愛媛大学 SUIJI 推進室 副室長、准教授)

平成9年3月北海道大学大学院農学研究科博士課程林産学専攻・修了(博士(農学))、平成9年9月愛媛大学農学部附属演習林・助手、平成21年7月愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授、演習林にて学生教育と社会貢献(障害者対象)を兼ねた森林環境教育事業を展開、平成18年文部科学省現代的教育ニーズ採択事業で共通教育に環境ESD指導者養成カリキュラムを開講、平成24年文部科学省大学の世界展開力強化採択事業で共通教育にSUIJIサーバントリーダー養成カリキュラムを開講。

■プログラム概要

「聞いたことは忘れる、見たことは思い出す、体験したことは理解する、発見したことは身につく」3000年ほど前に古代中国思想家が説いたされる学問についての教えは、私達自らの学びをふり返ったときにも納得をもって共感できると思います。ところが、大学に入るまでそして大学に入ってから、学びの形は「聞く」ことを中心に展開されるのが多いのが実情です。現在、着目されているアクティブ・ラーニングは、聞くだけでは身につかない学びを、身につく学びへと転換することにつながる授業の形態です。

この研修では、私がこれまでに学内外で実践してきた森林環境教育やサービスラーニングの事例を紹介し、経験の少ない学生がグループワークやフィールドワークを通じてどのような学びを得ているかについて、学生の成果物から参加者のみなさんと共に読み取ります。

また、参加者のみなさんには、学生が経験から得た学びを社会の持続的発展に貢献する行動する姿勢を促す授業活動について、考案してその成果を共有します。

■主な受講対象

本研修は、「経験」を基調とする授業を展開しながら学生が主体的に授業に関わる姿勢を引き出したい方や、サービスラーニングなどに代表される学生教育と社会貢献を兼ねる授業を実施することを模索している方々に特におすすめします。

また、2016年から2030年までに世界が達成すべき目標である国連「持続可能な開発目標」を講義内容に反映することに興味のある方にも向いています。

■本プログラムの到達目標

1. 学びにつながる経験の事例を具体的に説明できる。
2. 経験を重視した授業に参加した学生の成果物から、学生が何を学んだかを説明することができるようになる。
3. 経験することを通じて学んだ学生から社会に貢献する行動を促す授業内容を考案できるようになる。
4. 国連「持続可能な開発目標」を、経験を重視した授業に生かす方法を説明することができる。

■日時・会場

日時:平成28年8月26日(金)13:00～15:00

会場:愛媛大学城北キャンパス